

ソフトウェア品質保証責任者の会Re-Born

2018年度活動報告

2019年3月29日
西田尚弘、福田秀樹

SIGの名称・目的・目標

■ SIG名称

- ソフトウェア品質保証責任者の会 Re-Born

■ 当SIGの目的

- 関西で活動するソフトウェア品質に関わる人々の交流の場の提供
- 情報交流、技術交流することで互いのソフトウェア品質保証に関するスキルを高める

■ 当SIGの目標・成果物

- 参加者のソフトウェア品質保証スキルの向上
- 成果物について、活動した内容を公表する
 - セミナー内容を講師が許諾する範囲で公開する
 - 分科会の調査結果を極力公開する

SIGの活動内容

- 関西地区で一昨年まで行っていた“ソフトウェア品質保証責任者の会”の流れを受け、SIGとして「責任者の会」と同程度以上の交流の場を提供することを第一の活動とする
- 参加人数の拡大とともに、自主的な臨時会も含めて活発な活動を実施。議論したテーマの継続と深耕を継続すべく活動を進める
- 前回に引き続き、交流の場では以下を実施し、参加者のスキルアップを図り、メンバの所属組織のみならず日本の情報産業の発展にも寄与する
 - 参加メンバもしくは参加メンバが推す講師によるセミナー
 - 参加者がテーマを発起するソフトウェア品質保証に関する研究活動を分科会形式にて実施

年間活動実績

回	年月日	内容	備考
1	2018年5月18日	キックオフ、分科会活動	
2	2018年6月29日	メトリクスチーム検討	臨時会
3	2018年7月20日	分科会活動	
4	2018年9月21日	分科会活動	
5	2018年11月30日	セミナー&分科会活動	
6	2019年1月18日	分科会活動	
7	2019年2月28日	成果物・発表会内容検討	臨時会
8	2019年3月15日	成果物調整、発表会内容検討	

- ※隔月の定例会を日科技連にて、臨時会を2回追加開催
- ※メトリクスチーム、小規模プロセスチームの二手に分かれて議論、および成果物作成を実施
- ※2年間の成果をまとめて、19年5月に成果発表会を開催予定

年間活動実績 & 分かったこと

■ 成果物

- 小規模プロセスチーム

- チーム内の議論結果、小規模プロセスについては、「テーラリング」と「アジャイル」の2つが重要であるという気付きを得た
- 各社の事例からも、どのような活動を実施し、その結果を共有する事ができた

- メトリクスチーム

- 各社のメトリクス活用事例集の持ち寄り
- 取り組みのレベルはまちまちだが、何らかの形でメトリクス収集と分析、改善活動は回しており、知見が集められようとしている
- お互いの成果発表から新たな気づきを得ることもできた

次にやること

■ 次年度活動に向けて

- 隔月では活動の間隔が空きすぎ、研究のモチベーション維持が難しい
- 分科会に分かれてしまって相互交流がなかなかできなかった
- 次年度は、上記を踏まえて、「月次開催で2チームのテーマを交互に検討する」スタイルで推進する
- 日科技連は隔月のため、他の月はメンバの会社施設を利用
- 1年間を通じて「アウトプットを出す」ことにこだわって、議論をまとめていく
- 次年度テーマ
 - トラブルプロジェクトの分析と改善
 - バグ票のテキスト情報からの機械学習によるメトリクス選出